会　　議　　録

会議の名称	令和8年度　第2回和泉市総合教育会議
開催日時	令和8年8月27日（木）午後2時00分から午後3時00分まで
開催場所	市役所3階　3A・3B会議室
出席者	［構成員］　辻市長、大槻教育長、深堀教育長職務代理者、酉家教育委員、小谷教育委員、木村教育委員、網代教育委員 ［事務局］（教育委員会） 鍛治教育次長兼教育部長、上田教育指導監、奥教育部次長兼教育総務課長、永井学校教育室長、日美児童生徒支援担当課長、隅埜教育推進担当課長、岩井教職員担当課長、水田人権教育担当課長 山村生涯学習部長、森下生涯学習部次長兼文化遺産活用課長、藤井生涯学習推進室長 （市長部局） 東市長公室長、門林政策企画室長、田山企画経営担当課長 船津幼保育成担当課長、前田幼保育成担当参事
会議の議題	（1）　教育大綱の見直しの検討について （2）　本市における生徒指導上の課題の対応について（非公開）
会議の要旨	教育大綱の見直し検討案について、本市における生徒指導上の課題の対応について事務局より説明し、意見交換を行った。
会議録の作成方法	□全文記録 ■要点記録
記録内容の確認方法	□会議の議長の確認を得ている ■出席した委員全員の確認を得ている □その他（　　）
その他の必要事項	会議公開・傍聴者2名

審　議　内　容　（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1. 辻市長から、開会の挨拶

2. 事務局（市長部局）から「前回会議のふりかえりについて」について説明

3. 事務局（市長部局）から「教育大綱の見直しの検討について」について説明

4. 意見交換

【辻市長】

・大綱の理念は、これまで本市が大切にしてきた教育のあり方を体現するものであり、非常に本質的かつ普遍的な内容。

・あえて変更を加える必要はなく、これまで大切にしてきた理念をそのまま引き継いでいく形でよいのではないか。

・「切れ目のない支援」をより明確に打ち出す視点に立つならば、1つの大きな枠組みに包含させていくのが望ましい。

・重要なのは、これを単なる大綱上の理念にとどめず、具体的にどのような事業を展開し、いかに目的を達成していくかということ。

【深堀職務代理者】

・基本理念は今のままでも通用するので、変更の必要はない。

・「切れ目のない教育」でまとめるという意見もあるが、教育大綱は和泉市全体の基本方向を決めるものであり、就学前教育をこれまでと違うものとして扱う必要はないため、3区分のままでも良いのではないか。

・「生きる力の基礎」や「子育て力の向上」といったキーワードが削除され、言葉自体が消えたことには疑問を感じており、特に保護者支援のニュアンスを持つ当該表現の消滅は支援の後退と受け取られかねず表現の維持が望まれる。

・「社会総がかり」という表現に変えることについては概ね異論はないが、和泉市輝く子どもを育む教育のまち条例と足並みを合わせた内容にすべきではないか。

【酉家委員】

・機構改革の意図や大綱の方向性は理解できるが、対外的・市民目線で見た際に就学前教育の視点が薄れている。

・義務教育の前段階である0歳からの支援や子育てのあり方をしっかり打ち出すことが重要。

・2区分になると、文章全体のボリュームが増えるので、就学前教育の視点が分散され、薄れて見える。

・「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、文部科学省が重視している一方で、「個別最適な学び」による基礎学力の確かな定着があって、その上で「協働的な学び」によって社会の変化に対応していくもので、両立させるのは現実的に難しいのではないか。

・教職員の働き方改革の記載場所は「社会総がかり」のところでもいいのではないか。

・「社会総がかり」の部分について、「コミュニティ・スクール」や「多様な主体」、「予防的支援体制」といった要素を入れたいという意図を感じるが、入れすぎると煩雑になるため、整理が必要。

・「予防的支援体制」という言葉の趣旨は理解できるが、説明文として記載する以上は、伝わりやすいように具体的なワードを入れるなど工夫したほうがよい。

【小谷委員】

・今のままでは学校教育に就学前教育を付け足したように見えるので3区分の方が良い。

・こどもの年齢に沿った時間軸に分断したり、教育の幅が狭まったりしないように、就学前や生まれたときからの教育

も入れた方がよい。
・「未来を切り開く力」の部分について、文章が長すぎるため、教職員の資質向上と、児童生徒の学ぶ意欲・個性を引き出す形にした方が、先生方にフォーカスしやすいのではないか。
・「豊かな心」の部分に、「笑顔」のポジティブな面に加え、相手の心の痛みが分かるようなキーワードを入れ、いじめに関する施策に繋げていってはどうか。
・生涯学習は一昔前の人口増加期のイメージからアップデートが必要で、生産年齢人口の拡大に向けた「リスキリングによる社会参加」と、高齢者層を含むすべての世代を対象とした「長期的なICT教育」の2点に注力すべき。
・2区分にすると生涯学習部分の項目の少なさが気になる。

【網代委員】
・基本理念は先を見越したしっかりとしたものであるため、変更する必要はない。
・「就学前」「学校教育」といった時間軸での分類も分かりやすいが、「切れ目のない支援」を重視する観点から教育を一つの区分にまとめることも考えられる。
・2区分とするならば、切れ目のない支援として、就学前から一貫して考えていることが明確に伝わる説明にすべき。
・「家庭」という言葉が抜けてしまうのは残念。
・家庭・学校・地域でこどもたちを育てる現代において一番疲弊しているのは家庭の教育力であるため、困っている保護者やこどもへの支援が重要。
・「確かな学力の育成」の2つ目のポイント、「わかる授業を作っていく」から「～を引き出すような教育を推進すれば～」への変更に違和感がある。
・先生の働き方や資質能力の向上に関する項目について、環境整備を先にするなど文章の重みや順番を再考すべき。
・項目名としての「社会総がかり」は妥当であるが、ひとくくりにすると自分事になりにくいため、説明文の中に「地域」や「事業所」といった具体的な言葉は残すべき。
・具体的な言葉が入ることで、支援の対象者側も自分たちのこととして捉えやすくなる。

【木村委員】
・大事なことが書かれているのは分かるものの、キーワードが具体的でなくイメージしづらい。また、難しい表現が多く、理解しにくい。
・「予防的支援」や「支援体制」といった言葉が、関係者以外の人や教育現場から離れた人には分かりにくいため、具体的な担当部署や内容を明記するなどして理解しやすくすべき。
・3区分に分けられている方がパッと見て理解しやすい。
・2区分は、書かれている意味や概念についてまず考えなければならず、理解するのに時間がかかった。
・就学前と学校教育の間で線引きをしても、実際の現場で連携することが表現されていれば、どちらの区分でも大きな問題はない。
・大切な言葉が多く含まれている一方で、一読してイメージが湧くような分かりやすい表現にブラッシュアップすることで、施策が進めやすくなるのではないか。

【大槻教育長】
・組織機構で見ると、就学前教育が教育委員会から外れることになるので、学校や幼稚園・保育園がしっかり連携していく姿勢を示すために新しい区分を設ける発想があった。
・一方で、後から「書いてある」「書いていない」という議論になるのを防ぐため、あらかじめ明記しておく方が安心。
・切れ目のない教育の本質は、こどもたちが学び、社会に貢献していく人材を育成することにあるので、全てを一つの区分にすることも一案。
・「個別最適な学び」によって基礎学力を定着し、「協働的な学び」により社会の変化に対応した力をつけるよう、振り

分けてはどうかという意見もあったが、両方合わさって基礎学力の定着や社会の変化に対応した人間力の教育につながるため、このままの形でいいのではないか。

【事務局（教育委員会）】
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」はバラバラなものではなく一体的に進めていくものであり、それぞれ個別では馴染まないと考える。

【辻市長】
・切れ目のない一貫した教育を進めて行くということだが、現状どのような取り組みを行っているか教えてほしい。

【事務局（教育委員会）】
・令和3年度から令和4年度には、小学校入学時の円滑な接続をめざし、プロジェクトチームにおいて「和泉スタートカリキュラムガイド」および実践事例集「和泉スタートカリキュラムチャレンジBOOK」を作成。
・令和7年度には、青葉はつが野小学校・和泉緑ケ丘幼稚園・緑ケ丘保育園・はつが野国際こども園・みなまつ保育園が協働し、「かけはしカリキュラム」のベース案を作成。
・今後は、各校それぞれの「かけはしカリキュラム」の作成に向け、「和泉市こどもかけはし連絡会」「幼保こ小連携担当者会」、保育体験や小学校授業参観など、互いの指導の背景を理解する取組みを通じて、幼稚園・保育園・こども園と小学校との切れ目のない支援の強化をめざす。

【辻市長】
・「家庭」という言葉が抜けていることを危惧している。
・「家庭教育は教育の主軸であり、学校教育はそれを補完するものである」といった考えもあるぐらい大事なもの。

5・生徒指導上の課題について

（非公開）

【事務局（市長部局）】
・以上をもって、令和8年度第2回和泉市総合教育会議を終了する。

＜ 終了 ＞